

61. 渡し舟・嫁入り道具

話の端々にでた断片的な話題を集めた。嫁入りの話は通婚圏の広がりや時代性。庶民文化の高さなど様々な情報を含んでいるので、今のうちにもっと記録したいものだ。

◆大阪へ出るのは渡し舟

大阪へ出るのは渡し舟で出た。
一津屋の渡し……六番に着く。そこから守口まで歩く。
辻堂の渡し……歩いて守口に出る。

◆吹田への道

京都へは吹田まで1里の道を歩いた。別府から吹田へ行くのは怖かった。大きいセンダン（梅檀）の木があった。夜更けに通りがかった Bさんは、運悪くウシノトキマイリ（丑の時参り）の最後の日に行き合わせて、えらい殴られて歯を折られた。

吹田への道は入営者を太鼓を叩いて送っていった。藪にはダンゴバチの巣があった。若いころ犬が好きだったので、竹藪で子犬を3匹見つけて可愛いので捕まえて帰った。すると村の人に狐の子やないかとえらい叱られて、返しにいった。そういえば鳴き声がすこし変だった。

川（安威川）では入水自殺があった（別府）。

◆嫁入り

うちは2代つづいて岸部から嫁に来た。4代前の母（幕末の頃）は、岸部の出で、もと京都御所のお局さん。お局を辞める時いろいろ貰ったといって、平打ちのかんざし等があった（別府、大正4年）。

母は東淀川区豊里から1里の道のりを駕籠で嫁入って来た。結納などは釣台で担いでくる。字に入る前にシンゴサンの前でオコヤスミをした（別府、大正元年）。

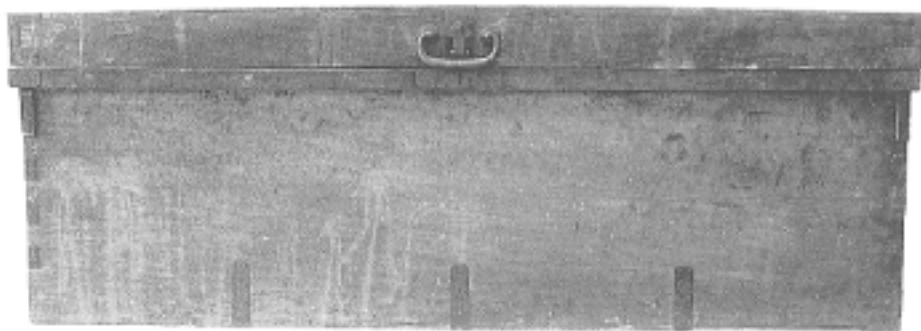
昭和6年（1931）に東淀川区上新庄から中内に嫁いできた。ニカ（二荷）の荷物をもって来た。カサネダンス、セイリダンス、ナガモチ、ヤナギゴオリ2個、イコウ（衣桁）で2荷。「二荷の荷物もらわな」とその頃いわれていた（千里丘東、明治41年）。

娘を嫁にやるために土地を売る人もあった。「娘3人もつと家もたん」といわれていた（鳥飼八防）。

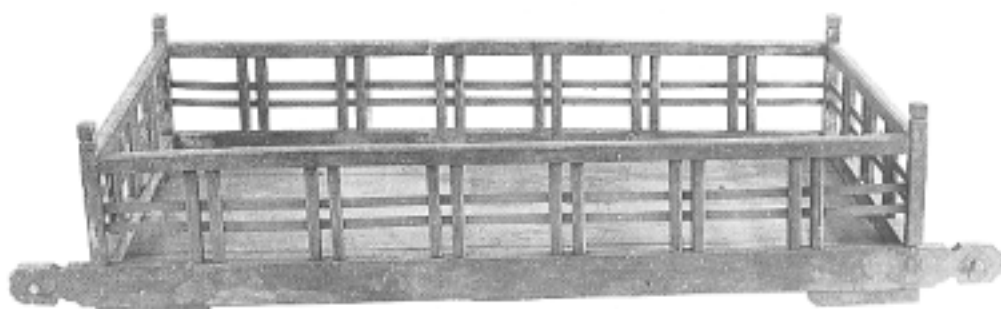
◆ツリダイ・カンザシ

〈A〉は長持、長さ176cm。〈B〉は輦台で長さ187cm、〈C〉は嫁入りの髪飾りで箱の長さ28cm、〈D〉の枕は長さ20cm、高さ15cm。

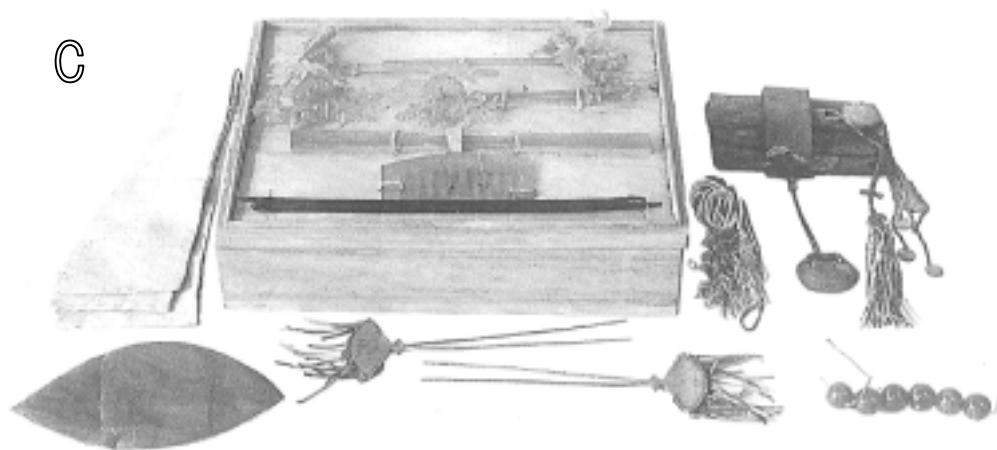
A



B



C



D

